

	1年(6人)	2年(6人)	3年(1人)	4年(10人)	5年(6人)	6年(8人)
(1)乳歯にむし歯3本以上	6	4	1	3	1	1
(2)永久歯にむし歯1本以上	0	0	0	0	4	2
(3)永久歯にC02本以上	0	2	0	5	2	6
(4)歯垢2	0	0	0	7	1	1

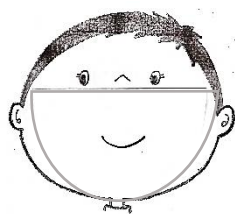
*あわせもっている児童もいるため、実際の対象児童は37名(内、外国籍児童12名)

【指導者】

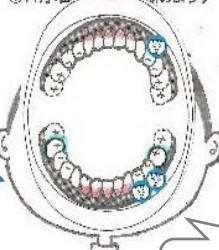
学校歯科医・歯科衛生士(5名)・養護教諭・学級担任・国際教室担当教諭(3名)・通訳(3名)等

【はっぴー教室】

①「自分の口の中を知ろう」仕掛けプリント



①11月:歯の健康診断のようす



口を上を開くと歯科健診の結果が分かります。

② 歯ブラシ点検・歯ブラシプレゼント

③ 歯垢染め出し・学校歯科医による口腔写真の撮影

④ 歯科衛生士・養護教諭によるブラッシング指導

⑤ 学校歯科医の話・歯みがき名人認定証贈呈

⑥ 保護者・歯科衛生士・養護教諭からの愛のメッセージ

参加児童の人数よりも多い指導者に見守られ、子どもたちの表情からは、「ぼくの担任の先生がきてくれた。」「同じ学年の先生が声を掛けてくれた。」「校長先生もきてくれた。」「歯科医の先生がほめてくれた。」「歯科衛生士さんが教えてくれた。」という心の声が聞えてくるようだった。そのうれしさが、ひたむきな歯みがきとなり、褒められ認められることで、さらにモチベーションが高まり、自分の歯が輝かせようと一生懸命みがいていた。学校歯科医の「はっぴー教室はどうでしたか？」の問い掛けに、第1学年の男子児童は「最初は昼休みで嫌だなと思ったけど、はっぴーになれてよかったです。」、第6学年の外国籍児童は「歯がツルツルになってうれしいです。」と話し、笑顔で教室に戻って行った。

(3) 第6学年突然のはっぴー審査 歯みがき意識が途切れない工夫と歯みがき技術の向上

歯みがき意識が途切れない工夫の1つとして、自分のみがき残しを確認する「6年生はっぴー審査(歯みがきタイム後の歯垢染め出し)」が生まれた。特別な審査会になるよう、第6学年だけの開催、突然開催、対象者への招待チケット配付、日替わり審査員(学校歯科医、歯科衛生士、校長、養護教諭など)の工夫で、どきどき・わくわくの特別な時間で



児童の元気なあいさつで、はっぴー審査がスタート

ある。審査後は、歯科衛生士によるスペシャル歯みがき指導の時間もある。事前に歯科衛生士と打ち合せを行うことで、ハイリスク児童を取り出すことなく自然な流れの中で指導ができた。

(4) 外国籍児童の保護者へのはッピー教室 保護者の歯・口の健康づくりへの意識の向上

4月の外国籍児童の保護者懇談会に、「はッピー教室」を開催し、本校の「歯・口の健康づくり」への理解を深め（養護教諭）、文化の違いも交えながらの口腔ケアについての講話

（市健康課）も行った。この教室の終わりに、保護者に歯科健診の結果を手渡ししたことで、受診率が高まった。



学校歯科医からのプレゼントの歯ブラシを持って
笑顔で記念撮影

4 成果と課題

○健康を願うハイリスク児童への指導が、自己肯定感を下げってしまう恐れもある。それを心に留め、少し視点を変えた取組により、「きれいにみがけた・やってよかった・楽しい」という前向きな気持ちと、自己肯定感を高めながら取り組むことができた。それには、学校全体でハイリスク児童への指導を行う体制と学校歯科医、歯科衛生士、市健康課の協力が大きな支えとなっている。

・子どもたちの口の中をのぞくと、健康、そして生活も見えてくる。家庭環境が背景にある場合、学校における指導と管理から、ハイリスク児童への受診につなげるアプローチに大変難しさを感じる。